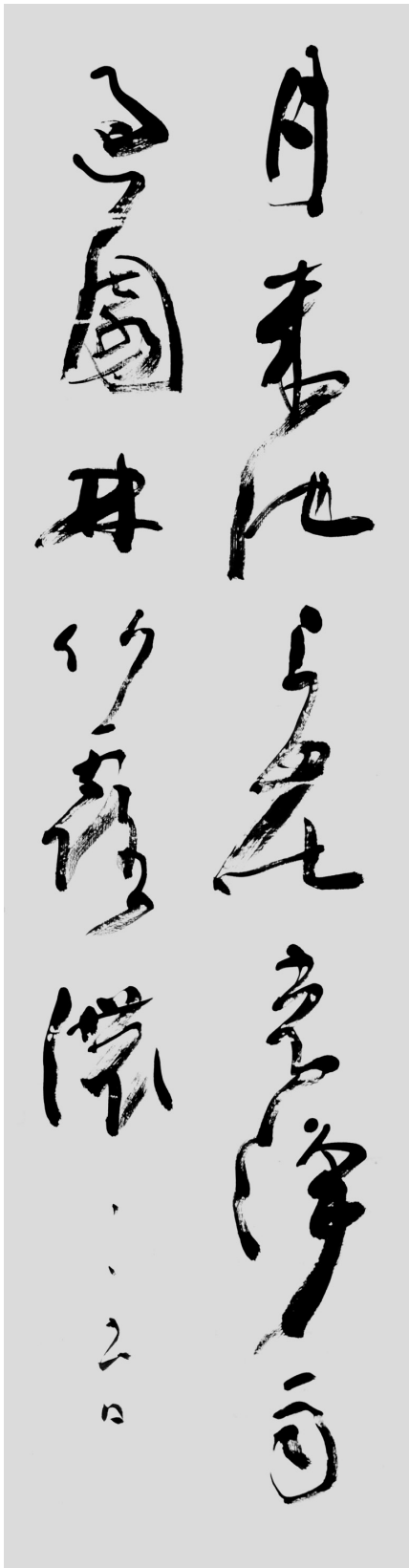


12月15日正午必着

明石春浦先生書



つきはちじょうにきたつてかこうきよく
月來二池上花光淨、雨過二園林竹露濃（袁宏道）

月は池上をてらして蓮花清く、雨は園林を
すぎて竹にやどる露もこまやかである。

窪田華岳先生書



かつきてすでにあめをささくるがいなく
荷盡已無擎レ雨蓋一
きくさんしなおしもおこるのえだあり
菊殘猶有二傲レ霜枝一（蘇東坡）
荒圃。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。



明石幸子書

大雪滿天地「胡為仗劍遊」
欲談心裏事「同上酒家樓」
(鄭燮)

大雪天地に満つ。胡為ぞ劍に仗つて遊ぶ。心裏の事を談ぜんと欲し、同に上る酒家の樓。
この大雪が天地に満つる時、何のために劍をたばさんで行くのであろう。——討入りではなく、
いささか氣持をはらそうとて、うちつれて料亭にのぼるとみえる。

寒風拂枯條「(陶潜)」

寒風 枯條を拂ふ

条は枝。寒風が樹々の枯枝を吹く。

楓落早鴻過 洞庭無限波
相望終不見 只是白雲多
(宋 樂)

楓落ち早鴻過ぎ、洞庭限り無き波。
相望んで終に見ず、只是れ白雲のみ多し。

岸べの楓は落葉して初雁が梢をすぎゆく。ここ洞庭湖には、はてしなく波立ち、彼方のあの人はいかに相見るよすがもなく、白き浮雲を切なくながめるのみ。

空寂寺悼元上人「(錢起)」

空寂寺にして元上人を悼む 錢起

悽然雙樹下 垂淚遠公房

悽然たり 双樹の下 涙を垂る 遠公の房

燈續生前火 爐添沒後香

灯は続く 生前の火 炉は添う 没後の香

陰階明片雪 寒竹響空廊

陰階 片雪明らかに 寒竹 空廊に響く

寂滅應爲樂 塵心徒自傷

寂滅 応に樂と為すべし 塵心 徒らに自ら傷む

街をゆき 子供の傍を通る時 蜜柑の香せり 多がまた来る
(木下 利玄)

半紙部規定課題A

12月15日正午必着

中鳥
樹宿
池

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

12月15日正午必着

行書

鳥宿池
中樹

隸書

鳥宿池
中樹

明石春浦先生書

草書

鳥宿池
中樹

行草書

鳥宿池
中樹

しづかなわびずまい、隣り合う家とてなく 草むす径は、荒れるにまかせた庭へとみちびかれる
鳥は池の中の木立にやどり 僧がひとり、月の光の下に門をたたく（ひそやかなその音）
橋を過ぎてなおも存する野のけはい 山中の雲のわく石を移し来てすえてあるのが目に入る
しばらく他処に行っていました、またここにもどって来ました 風雅のちぎり、決して言に違ふことはありません

題「李疑幽居」

賈島

閑居少鄰並
草徑入荒園
鳥宿池中樹
僧敲月下門
過橋分野色
移石動雲根
暫去還來此
幽期不負言

李疑が幽居に題す 賈島

閑居 鄰並少に
草徑 荒園に入る
鳥は宿る 池中の樹
僧は敲く 月下の門
橋を過ぎて 野色を分かち
石を移して 雲根を動かす
暫らく去りて 還た此に来る
幽期 言に負かず

（出典）
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

使貧士除寒慙人散慮謹當相率即事馳
參冀近傳孟還此無述

就知故借傳書

苦耕已久志冀聚螢

甲書脫閑更借看學若斯不
許不敢出言二可猶是田家先

無史藉仰知有傳計
應少閑遲暫借學耳

輕事諮弗輕借寫之隨了即送不令損失
幸勿為疑忤悞之慙違當奉謝

答

使貧士除寒慙人散慮謹當相率即事馳參冀近傳孟還此無述就知故借傳書苦耕已久志冀聚螢（甲書脫閑更借看學若斯不許不敢出言亦可舊是田家先無史藉仰知有傳計應少閑遲暫借學耳）輕事諮憑
題借寫之隨了即送不令損失幸勿為疑忤悞之慙違當奉謝一答

為幸勿疑

幸勿爲疑

輕事諮弔輟借寫之隨
了即送不令損失

輕事諮憑。
 暫借寫之。
 隨了卽送。
 不令損失。

光明皇后・杜家立成雜書要略（奈良時代）

光明皇后（七〇一年～七六〇年）は聖武天皇の皇后光明子であつて、天皇とともに鎮護國家の思想によつて仏教を厚く信仰し、寺院の建立や大仏の造立に力を注ぎ、悲田院・施藥院などの慈善施設を設けて貧窮民の救済にあつた。

奈良時代は、遣唐使の派遣などによって、唐の最盛期の文化の影響を強くうけ、平城京を中心に高度な貴族文化がさかえた。（天平文化）

書においても、唐土から搦模本（敷き写しされたもの）が数多く請来され、光明皇后も王羲之をよく学ばれていたようである。^{〔樂毅〕}の臨書はあまりにも有名である。その臨書態度の素直さは、その人柄からきているものであろうか、一字一筆誠心を込めて書かれた美しさは何人も及ばぬ崇高さを持っているといわれる。

光明皇后之書には、『樂毅論』と並び称せられるものにこの『杜家立成雜書要略』がある。これは、文章の名家としてよく知られてきた隨の杜家の日常書簡文例を書き写したものであらう。この書は、第一紙の部分は樂毅論ときわめてよく通ずるところがあり、第二紙からは筆勢が暢達しており、さらに円熟した趣を感じさせる。皇后の、物に動じない強さと、純粹な性情の発露したこの書は、奈良時代を代表する名品といわれている。

（春濤）

12月15日正午必着

教育部毛筆

楽譜

がく
楽

ふ
譜

中学一年

雨宮春聲先生書

講演会

こう
講

えん
演

かい
会

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

しゅ
首

と
都

小学五年



藤井良泰先生書

とく
特

しょう
賞

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

12月15日正午必着



にん
人

ぎょう
形

小学三年

藤田幸春先生書



ちよう
直

けい
徑

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

か ね 小学一年・幼年



森戸春濤書

まわり 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

登ると公園がある
なだらかな坂道を

小学五年

真心をもって話せば
必ず心が通じます

小学六年

里山に初雪が降り
冬の訪れを告げる

中学

弦が奏でるやさしい音楽
時の流れに満たされる

一般(級位)

あしひきの山吹の花散りにけり
井手のかはづは今や鳴くらむ

一般(段位)

あしひきの山吹の花散りにけり 井手のかはづは今や鳴くらむ (藤原興風)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ふ	ね
つ	ん
を	ど
つ	て
く	
る	ど
	う

幼 年

か	年
ぞ	こ
く	し
て	そ
た	ば
べ	を
る	

小学一年

大	家
そ	ぞ
う	く
じ	み
を	ん
す	な
る	で

小学二年

夕	火
ー	の
を	用
か	心
い	の
た	ポ
	ス

小学三年

き	り
ん	は
長	い
首	で
遠	く
を	見
て	い
ま	す

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

岩本景楓先生書

あしひきの山河のせのなるなへに弓月が獄にくも立(ち)渡る
 (柿本人麻呂)

あしひきの山河のせのなるなへに弓月が獄にくも立(ち)渡る
 (柿本人麻呂)